



イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 570 回 「国税職員の暗号」を教えちゃおう！

2014.3.30

どの業界にも「隠語」、いわゆる業界用語があるが、「国税用語」というものがある。国税職員同士の会話で日常用語として使われているようだ。小生、税務署 OB ではないが、永年この業界にいと、たびたび耳にする、今回は、そんな国税用語について紹介してしまう。

代表的なものと言えば「マルサ」が有名だが、映画「マルサの女」がきっかけで、「マルサ＝国税局査察部」というのが一般にも広く知られるようになった。しかし、これが東京国税局の場合だと「ロックアイ」と言われる。これは、東京国税局査察部が庁舎の“6階”にあったからで、その名残というわけ。査察部内でも業務内容により部署が分かれている。実際に被疑者に対して強制調査を行う実施部門と、脱税しているかどうか情報を集め調査する情報部門。実施部門を「ミノル」情報部門を「ナサケ」と呼んでいる。局の特殊部隊ともいえる国税局資料調査課のことは、「リョウチョウ」と言っており、マルサに次ぐ怖いところである。

最近では税務執行の多様化に対応するため、色々な役割が増えてきた。情報技術専門官、国際税務専門官、「機動隊」と言われる機動官や源泉機動調査専任者、垣根を越えて活躍する「レンチョウ」(連絡調整官)などの専門ポストが設けられている。

徴収官の口から「エスしよう」と言われたら、やばい！これは差押えを意味する隠語である。「反面調査」の事をそのまま「ハンメン」といい、その結果「重加算税」については「重い」、 「過少申告加算税」で済めば「軽い」ということになる。

税目の呼び方も隠語がある。たとえば源泉所得税は「マルゲン」、消費税は「マルケシ」、法人税は「サンスイ」、相続税や贈与税などの資産税は「ニスイ」、所得税は「トコロ」と呼んでいる。単純に頭文字の漢字の部首で示しているのが、何となくおかしい。

ちなみに総務は「イトベン」、管理運営・徴収部門は「ギョウニンベン」、国税局の調査部のことは「ゴンベン」と読んでいる。

国税職員から「本店」「支店」という言葉もよく聞かすが、これは国税局が「本店」で、税務署が「支店」という意味だ。支店で一番偉い人を「オヤジ」と言い、税務署長の事である。副署長のことは「サブ」、「オヤジとサブがそろって出かけた」的な使い方をする。女性署長の場合も、「オフクロ」ではなく「オヤジ」である。「トッカン」と言われているのは、主に大規模税務署において、大口案件を扱う副署長クラスの役職である「特別国税徴収官」「特別国税調査官」「特別国税査察官」のこと。トッカンの次が、トッカン以外の通常の規模の案件を取り仕切る「トウカツ」。統括国税調査官、統括国税徴収官などとなる。この下に「ジョウセキ」と呼ばれる上席国税調査官・徴収官と続く。

こうした独特の国税用語を使うのは、職員同志で飲み屋などに行った時など、職場での情報が一般の人に分からないようにするため、つまりカモフラージュだ。

呑み屋のどこかでこんな言葉を耳にしたら、税務署の連中が一杯やっていると思われ、以後、軽率な発言は慎むこと、優しい税理士さんからのアドバイスである。